

日本公民館学会第7回大会のご案内

大会実行委員長 小池 源吾

早いもので、本学会は、今年で7回目の大会を迎えようとしています。

毎年、翌年度の大会開催地が理事会の議題にのぼるたびに、あれこれと口実を並べたてては、同席する理事の皆様がどうか広島に向けられませんようにと心密かに祈ってまいりました。それでも、会員の間で、そろそろ関東地区以外のところで大会を開催してみたらどうかという気運が年ごとに高まり、しかも、候補地の筆頭に広島が挙げられてしまいますと、もはやこれまでです。これ以上、詭弁強弁を弄して固辞しつづけるわけにいかなくなっていました。

そのような次第で、第7回大会は、**12月6日（土）・7日（日）**の両日、**広島修道大学を会場**にして開催します。本学会発足以来、初めての西日本での開催となります。2日間にわたるプログラムの構成は、従来の様式をほぼ踏襲したいと考えています。したがって、初日は、午後の開会式の後、課題研究Ⅰ、総会、懇親会とつづき、2日目は、午前中に課題研究Ⅱ、そして、午後には、自由研究発表とポスターセッション、それに引き続くシンポジウムでもって大会を終えることになるはずで

それでも、折角、遠路、当地にお越しいただくわけですから、実行委員会といたしましても、会員の皆様に喜んでいただけるようなプログラムを準備したいと知恵を絞っているところです。広島ならではの「おもてなし」として、企画中のものをご紹介しますと、次のようになります。

（1）シンポジウム「転形期の公民館を考える」

公設公営を基本原則としてきた公民館の財団化に先鞭をつけたのみならず、すでに指定管理者制度の導入に踏みきった広島市をはじめ、首長部局への移管化や公民館からコミュニティセンターへの名称変更等をいち早く進めた県北の三次市など、ここ広島県下の公民館は、全国の公民館が抱える諸課題の縮図と言った様相を呈しています。そこで、公民館をめぐる今日の状況を「広島」で検証し、「今、公民館に期待される役割」と「公民館職員の専門性」について皆様とともに検討したいと考えています。

（2）映像でみる広島の公民館

原爆投下によって焼け野原と化した広島市が復興していくなかで、公民館がいかなる歴史を辿ったか、残された写真や映像で再構成してみたいと考えています。現在、関連する資（史）料の発掘中です。

（3）広島市内の公民館探訪

百聞は一見に如かず、と言われるます。したがって、広島の公民館を理解していただくため、実地見学の可能性を探っています。

とまれ、ひとりでも多くの会員の皆様がご来広くださいますよう、ここにお願いとご案内を申し上げます。